

いのすけさん

井の頭恩賜公園開園100周年カウントダウン新聞

吉祥寺

20号
2015年1・2月号

2015年(平成27年)1月1日

●編集・発行
いのきちゃん編集委員会
編集長 川井信良
東京都三鷹市上連雀 1-12-17
株式会社文伸 気付
電話 0422-60-2211
FAX 0422-60-2200
メール inokichi@bun-shin.co.jp

●協力
東京都西部公園緑地事務所
東京都井の頭自然文化園
井の頭恩賜公園100周年実行委員会
NPO法人みかた都市観光協会
一般社団法人武蔵野市観光機構

●制作支援
株式会社文伸 / ぶんしん出版

井の頭恩賜公園
開園100周年まで
あと2年4ヵ月

今年も弁天様の元に、井の頭池に住む生き物達が新年のこいさつに集まりました。その帰りに、カワセミのミドリはセミソウからブルーギルをプレゼントされました。「お年玉」ではなく、カワセミのプロポーズです。ミドリはセミソウと一緒にこの池で子育てして行くことと決め、セミソウのプレゼントをこちそうになりました。

絵せのうさこ 文瀬能けい子

せのうさこ 1975年 盛岡市で生まれる。小6で三鷹へ転校。アニメ動画から絵本に進む。三鷹市在住。瀬能けい子さんは母親。

INFORMATION 2015年1月~2月

井の頭自然文化園

●[Visit ほんと Zoo 2015]開催中

 冬の都立動物園・水族園の魅力味わい尽くすキャンペーンを実施しています。一温かさの「ほんと」、活気のある「ほんと」、話題を集める「ほんと」、和んで一息「ほんと」―冬の動物園・水族園にはそんな「ほんとポイント」がいっぱい!

●アジャソウ「はな子」誕生会 2/1実施予定
はな子は毎年1/1に誕生日を迎えます。今年には68歳。記念のお祝い会を開催します。

●February Concert at The Zoo
文化園では、今年もコンサートを開催。
入場無料で皆様をお待ちしています。

各日 13:30~ 場所 彫刻館B館
定員 150名

| 出演アーティスト | |
|---|--|
| 2/8(日) | 2/15(日) |
|  琴鼓 n管 (キンコンカン) |  遊佐末森 |
| 2/22(日) | 3/1(日) |
|  増田太郎 |  三遊亭白鳥 林家二楽 |

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.tokyo-zoo.net/zoo/ino/index.html>

井の頭恩賜公園

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.i-np.jp/index.html>

井の頭かんさつ会

- 第117回「冬のバードウォッチング」1月24日(土) 10:00~12:00
- 第118回「テーマ未定」2月28日(土) 10:00~12:00

事前申し込みが必要です。詳細や申し込み方法はHP <http://www.kansatsukai.net/> に載せます。

募集

井の頭公園の古い写真を集めています

◀昭和25年頃の井の頭池
写真提供：鈴木育男氏

2017年の井の頭恩賜公園開園100周年を記念して、井の頭公園の今昔を伝える写真集を刊行する予定です。井の頭公園の古い写真をお持ちの方で、写真集に掲載しても良い方はご一報願います。なお、お借りした写真は、スキャン後、速やかにご返却いたします。また、謝礼として、完成した写真集を謹呈いたします。

お問い合わせ ぶんしん出版 ☎0422-60-2211 (担当：宮川)
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀 1-12-17

1級渡邊安浩のいのけん受験講座 答え合わせ

Q1 ① 善福寺 ② 妙正寺 ③ 隅田 Q3 ① 懸樋
Q2 ① 神田上水 ② 江戸川 ③ 神田川

井の頭自然文化園の動物たちと飼育員 その1

モルモット と つしまより 対馬恵理さん



もともと家畜であるモルモットは、とくにメスの気性が穏やかで、重さも500~600gほど。「ふれあいコーナー」は、入園者の約半数が訪れるという、子どもにももちろん、大人にも人気のスポットです。

「このモルモットは雑種なので、毛の色も長さも、つむじの数もいろいろ。親子やきょうだいで色違いということもあるんですよ」とモルモット担当の対馬恵理さん(28)。冬でも夏でも身を寄せ合っているのは、「人間でも壁際にくっついていると落ち着きますよね。それと同じです」。

モルモットは生まれたときから目が開き、歯も生えていて、まるで大人のミニチュア。約3ヶ月で大人になり、お見合いをして、赤ちゃんが生まれます。離乳したらお母さんは「ふれあいコーナー」にデビュー。お父さんではない他のオスたちは、教育を目的に学校などに譲渡しています。

担当になって8ヶ月の対馬さん。「全部で200匹いても、ベテランの飼育員は具合の悪い子がすぐにわかる。私はまだまだですけど、お客さんに正しい持ち方を伝えて、癒やされている姿を見ると、よかったなあと思います」。

小田原 濤 (おだわら みほ) 編集者・ライター。フィールドは多摩。三鷹市在住。

20 今月の はな子

はな子のいたずら

前回ははな子の寒さ対策についてお伝えしましたが、今回はそのひとつ、断熱カーテンにまつわるお話です。

はな子の寝部屋と来園者観覧スペースとは暖気を逃さぬように一部を除いてビニールのカーテンで仕切られています。そのカーテンの一部が、ある朝20cmほど切り裂かれていたのです。前日の夕方にはなかった傷で、夜間に何者かが侵入したかと大騒ぎに。それには警備システムに異状は報告されておらず、謎は深まるばかり。もしや内部の犯行かと疑心暗鬼で監視モニターの録画映像を再生してみれば・・・そこには犯行の一部始終が。

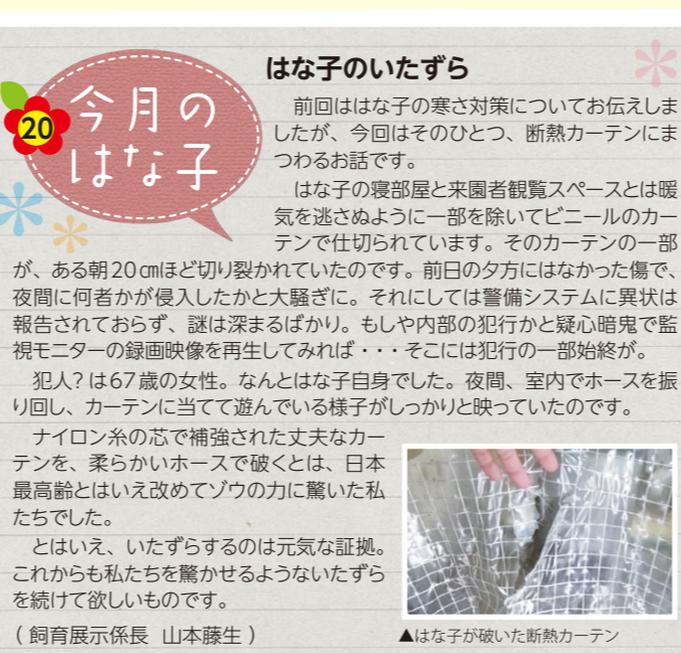
犯人?は67歳の女性。なんととはな子自身でした。夜間、室内でホースを振り回し、カーテンに当てて遊んでいる様子がしっかりと映っていたのです。

ナイロン糸の芯で補強された丈夫なカーテンを、柔らかいホースで破くとは、日本最高齢とはいえ改めてゾウの力に驚いた私たちでした。

とはいえ、いたずらするのは元気な証拠。これからも私たちが驚かせるようないたずらを続けて欲しいものです。

(飼育展示係長 山本藤生)

▲はな子が破いた断熱カーテン



井の頭公園の生き物たち キンクロハジロ その20

井の頭かんさつ会 田中 利秋 (たなかとしあき) 井の頭かんさつ会代表。毎月自然観察会を開催。池の外来魚問題にも取り組む。



オス(左)とメス

池が変わるとカモも変わる

白黒のボディに金色の眼と後ろになびく冠羽が特徴のカモ。もっとも、メスは白黒ではなく焦げ茶色です。「羽白」とはオスの胴体の羽ではなくて、翼を広げると見える風切り羽が白いからです。

大陸で繁殖し、冬越しのため日本に渡ってきます。潜水してシジミなどの二枚貝を採食するため、大きな川の河口などで暮らすことが多かったのですが、人々が与えるエサを求めて、市街地の公園の池にも来るようになりました。井の頭池で数が増え始めたのは、オナガガモより20年余り遅い1990年

12月中旬の調査では、井の頭池のカイツブリは8羽でした。お茶の水池の上流側とボート池の池尻近くにカップルが縄張りを構え、その間のスペースに他の4羽が暮らしています。両カップルはどちらもうちが長く、仮の巣を一緒に作りだすという行動を繰り返しています。縄張りの防衛意識も強固です。次の子育てに備えているのでしょうか。一方、他の4羽には縄張り意識が見られず、激しく争うことなく同居しています。単にここで冬を越すのが目的のようです。大きな川や湖ではカイツブリの集団越冬が見られますが、冬の井の頭池にこれほど多くの個体が暮らすのは近年なかったことです。

その理由は、やはり食糧事情の改善でしょう。岸辺の虫を懸命に探す姿をほとんど見なくなりました。水温低下で動きが鈍ったブルーギルの稚魚をよく捕っています。前も大量にいました。他の小魚など水中の餌動物ががいぼり効果で増えたのが、今年の違いだと思います。

ボート池ペア

井の頭かんさつ会 田中 利秋 <http://homepage2.nifty.com/tnt-lab/>

代後半。その後急増し、ピークは、井の頭自然文化園の記録によると、2005年の190羽です。その頃は、日が暮れると一斉に池を飛び立って行くのが毎日見られました。彼らは夜明け前に再び井の頭池に飛来します。

その後数が減ったのは、2007年3月に始まったエサやり自粛キャンペーンが最大の理由です。ただしオナガガモの急減ぶりとは異なり、キンクロハジロの減り方は緩やかで、たまに現れるエサやり人の下に殺到する光景が相変わらず見られました。

暮らしぶりがさらに変わったのが、2014年の1月~3月に井の頭池のかいぼりが行われてからです。水が満ちた池に戻った彼らは盛んに潜水をするようになりました。井の頭池にはシジミはほとんどいませんが、かいぼり効果で増えた水生昆虫やエビなどを捕って食べているようです。水が澄んだので、水中を泳ぐ姿が見えることもあります。エサやり自粛が始まってから行くようになった弁天池にまったく行かなくなりました。「海ガモ」とも呼ばれる彼らは、本当は狭い場所が嫌いです。エサをくれそうな岸辺の人やボートを必死で追いかける姿もめっきり減りました。夜も飛び去らずに、池で一日中過ごしているようです。個体数はピーク時の10分の1ほどになりましたが、今も来ているのは本当に井の頭池が好きなのかもしれません。井の頭池はその程度の数のカモなら自活できる池になったのです。



潜水中のメス

20 定住者と滞在者

「楽園はよみがえるか!」

カイツブリ通言

カイツブリは、得意の潜水で小魚やエビを捕まえる。小さな水鳥です。池や川にカップルで縄張りを作って暮らし、子育てをします。

開園当時の池周辺は、杉の美しさが際立っていた

今回ご紹介する絵葉書は、前号同様、絵葉書コレクターのヨシモトさんがご提供くださったコレクションの一枚です。今の季節にぴったりの雪景色。灰色の空と梢の雪が、キリッと冷たい空気を伝えていきます。カラーフィルムがなかった時代の彩色仕上げは、写真と絵画の間で揺れるメランコリックな趣が印象的です。



▲【井の頭公園まるごとガイドブック】より



▲【井の頭公園雪景】【絵葉書提供：ヨシモト氏】

梢に雪を載いてすっくと空に伸びるのは、杉です。絵葉書の左の近景と、右側の遠景にも、密に植えられている杉木立が見られます。

井の頭恩賜公園の開園から第二次世界大戦中まで、井の頭池を囲む杉の美しさは賞賛の的となっていました。畔ぎりぎりまで杉木立で、今は桜の名所となっている池とは、かなり異なる風景だったのです。

これらの杉は、1882（明治15）年に一千本植えられたものと言われます。当時はまだ、江戸時代にひきつづいて神田川が水道として使われていました。その源流である井の頭池の水源涵養のために、植樹されたのです。そして後年、大戦中に空襲の犠牲者のお棺にするために、ほとんどの杉が伐られたと伝えられています。

「池のはたの杉の木が、すっかり伐り払われて、何かこれから工事でもはじめられる土地みたい、へんにむき出しの寒々とした感じで、昔とすっかり変わっていました」……これは、太宰治が1947（昭和22）年に発表した『ヴィヨンの妻』の一節です。小説に一貫して描かれた戦後の荒んだ人の心を、杉の伐採後の風景が象徴しているようです。

ところで、杉が植えられる前の池は、どんな景色だったのでしょうか？ 1897（明治30）年に東京府が行った立木調査の記録には、御殿山にはコナラ、サワラ、小マツ、カラマツなどが記されています。一方、江戸時代の何冊かの地誌の記述を見ると、池と周辺には葦、薄（すすき）、柳、楓、松などが生えていたことが分かります。いずれにしても、杉の名は出てきません。

いつ訪れてもゆったりと迎えてくれる緑と水の豊かな公園。時代を俯瞰してみると、時の流れとともに風景が変化してきたことが分かります。

安田知代

安田知代（やすだ ちよこ）
編集者・ライター。井の頭公園まるごとガイドブック「懐かしの風景」昭和20・40年編編者。

私と井の頭公園 その20

『いきもの広場』は僕のやりたかったこと

成島悦雄（白野区在住）

井の頭自然文化園の成島悦雄園長が、この3月で定年退職となり園を去る。優しいお人柄と、動物たちを見守る温かくも好奇心あふまぬさが印象深い人で、残念である。生まれは栃木県なんです、ものごとこついた時は東中野で暮らしていました。まだ周りは畑ばかりで、赤胴鈴之助や月光仮面の時代ですよ。

高校の頃に動物に興味を持ち始め、大学は獣医学科です。そこで動物行動学の権威である日高敏隆先生の授業を受けました。生き物そのものの生き様があるという視点ですね。「狼は狼同士の戦いに負けると、負けた方が首を差し出すんです。ところが勝った方は殺さない。なぜか。種を守るわけです」。こんな話を聞くと、がぜん面白くなって動物に興味を持った訳です。そんな野生の動物に会えるところはどこかなと、それは「動物園だ」（笑）、と思ったのですが、募集が少ないところなんです。でも運よく東京都に就職でき、最初の赴任は上野動物園でした。以来、多摩動物公園などいろいろ経験して、60歳の時に井の頭自然文化園に園長として着任したんです。

園長は大変ですね、苦情対応もしなくてはなりませんから、ここに来て腰が低くなりましたよ（笑）。5年間の思い出という、70周年記念にめぐり合わせたこと、「いきもの広場」を作ったことですね。今の子供たち、特に都会の子はなかなか生き物と触れ合うことが少ないですよ。でも人間は生き物を見つけたら捕まえて飼育して本能としてあるんです。そういうことを子供のときに体験させたいのです。ヒトを含め、生き物たちの命がながっていることをいつか分かってもらえればうれしいですよ。そのきっかけになる場所が出来たことが一番の思い出かな。実はこれ、自然文化園の本来のねらいなんです。開園時につけられた「文化」は「教育」という意味があり、ここは自然の教育園なんです。僕のやりたかったことはこういうことなんだと改めて思いました。

（東京都井の頭自然文化園 園長 なるしませつお）

（聞き手・写真・川井信良）



昨年11月に成島園長の著作『珍獣図鑑』（ハッピーオウル社1,800円＋税）が発行されました。イラストは井の頭自然文化園のデザイナー・北村園子さん。

川井信良（かわいしんりょう）
70年代80年代に、『三鷹の川』『三鷹たんびん』『や』などかきかいた作家。



写真 古賀 親宗（こが ちかのり）
1983年 福岡県柳川市生まれ。三鷹市在住のフォトグラファー。

第3回 1級渡邊安浩 のいのけん受験講座

今回は、いのけん一級問題です。（ ）内を漢字で埋めて下さい。

Q1 神田川は、井の頭池より発し、（ ① ）川、（ ② ）川と合流しながら東進し、柳橋下流で（ ③ ）川に合流する全長約 25Kmの一級河川です。

Q2 昭和 39(1964) 年の河川法改正までは、今の神田川は、井の頭池から関口大洗堰までを（ ① ）、関口大洗堰から船河原橋までを（ ② ）、そこから隅田川までを（ ③ ）と呼ばれていました。

Q3 神田上水は、水道橋付近の神田川の上を（ ① ）と呼ばれる橋で渡して江戸の町に引かれていました。

答えは裏面のインフォメーションのところだよ

よみがえれ！ 井の頭池 20

▼三ツ池でザリガニ捕りをする「井の頭かいほり隊」



かいほり隊、三ツ池でスキルアップ！

平成25年秋の公募で集まった「かいほり隊」。講習で学び、かいほりを実施した後、活動が続いています。去る11月2日には、横浜市鶴見区の神奈川県立三ツ池公園でスキルアップ研修を行いました。

三ツ池では平成20年からかいほりが実施され、三ツ池公園を活用する会水辺クラブがアメリカザリガニ駆除釣り行事を春から秋にかけて毎月2回行うなど、市民参加による活動が継続されています。かいほりで外来生物を激減させた後、ブルーギル、アメリカザリガニ、ミシシッピアカミミガメなどの繁殖力の強い外来生物の駆除を継続し、在来生物の回復をめざす状況は同じ。井の頭池の先を行く先輩格の活動から、学ぶことは大きいのです。なかなか一掃できない外来生物ですが、観察しつつ学びつつ、地道な試行錯誤が続けられているのです。

『いのきちさん』について

都立井の頭恩賜公園が2017年5月に開園100周年を迎えます。『いのきちさん』は、もうすぐ100歳を迎える井の頭公園に、感謝の気持ちを込めて、地域の市民と企業と団体の協力により発刊された100周年カウントダウン新聞です。名称は井の頭公園の「いの」、隣接する吉祥寺の「きち」、井の頭池が市内となる三鷹市の三「さん」を並べたものです。（奇数月1日の隔月発行です）

「いのきちさん」のホームページができました！更新中！
<http://www.inokichisan.com/>

「いのきちさん」の感想やお問合せはメールでも受付けています。
✉ inokichi@bun-shin.co.jp

「いのきちさん」を置いていただける所を募集しています。



スマートフォン対応

